

「第2期岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画（第2期読書バリアフリー計画）」（素案）に対する県民意見等の募集結果について

令和7年11月20日から令和7年12月19日までの間、「第2期岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画（第2期読書バリアフリー計画）」（素案）について、おかやま県民提案制度（パブリック・コメント）により、ご意見を募集したところ、次の2件が寄せられました。これらのご意見等に対する県の考え方を掲載しておりますのでご覧ください。貴重なご意見ありがとうございました。

<寄せられたご意見等と県の考え方>

第3章 2 視覚障害等のある人が利用できる読書手段

番号	ご意見等	県の考え方
1	視覚障害のある児童生徒の多くがUDブラウザというアプリを使いこなしている。このアプリは、PDF化した図書の拡大やリフローの機能があるので参考にしてほしい。	ご意見を踏まえ、視覚障害等のある人が利用できる読書手段(P.4)に読書支援アプリを加えるとともに、障害者ITサポートセンターおかやまの主な取組(P.11)に、読書支援アプリについて記載します。 なお、県視覚障害者センターや県立図書館において、読書支援アプリの紹介に努めてまいります。

第4章 2 施策の方向性(2)読書を支援する環境の充実

番号	ご意見等	県の考え方
2	視覚障害のある児童生徒は、発達段階での体験の機会が少なく、人の考えや経験を読書から学ぶことが重要である。 そのため、岡山盲学校への学校司書の配置や県立図書館又は近隣校による読書サポート体制を検討していただきたい。	岡山盲学校では、司書教諭を中心として、図書室での図書の紹介コーナーの作成やボランティアによる読み聞かせを行うなど、児童生徒の実態に合わせた取組を行っています。 岡山盲学校における学校司書の配置や近隣校からの派遣による支援については、学校のニーズ等も踏まえ、研究してまいります。 また、県立図書館においては、資料の利用相談や協力貸出等による読書支援を引き続き実施してまいります。